

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語聴覚障害概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 6,7限他	教室名	401他
担 当 教 員	藤本光輝 浜田広幸 小坂将史	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
言語聴覚障害の種類と特徴を理解し、診断基準と臨床基礎を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期テスト100% (試験素点が60点以上を合格とする)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
授業は資料を配布し、PCスライドで授業を行う、また適宜小テストを行う 参考図書:言語聴覚士テキストー第3版ー 医歯薬出版株式会社 言語聴覚障害学概論 第2版 医学書院						
《授業外における学習方法》						
事後学習として、授業内で配布される資料や実施される確認問題を適宜見直し知識の定着に努めて下さい。						
《履修に当たっての留意点》						
言語聴覚障害の概要を学び、基本的な言語聴覚士の役割や倫理についても学習して下さい						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	摂食と嚥下の関係、嚥下のメカニズムについて説明できる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマに おける 授業予定	摂食と嚥下の関係、嚥下のメカニズムについて学ぶ			
第2回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	嚥下器官の解剖と生理、嚥下関連の筋について画像から部位と名称を同定できる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマに おける 授業予定	嚥下器官の解剖と生理、嚥下関連の筋について学ぶ			
第3回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	嚥下の神経機構、嚥下障害の原因と分類について説明できる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマに おける 授業予定	嚥下の神経機構、嚥下障害の原因と分類などについて学ぶ			
第4回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	摂食嚥下障害の評価の概要を説明できる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマに おける 授業予定	摂食嚥下障害の評価の概要について学ぶ			
第5回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	摂食嚥下障害の訓練の概要を説明できる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマに おける 授業予定	摂食嚥下障害の訓練の概要について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経心理学の基本概念について述べることができる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害と脳の基本構造、神経心理学の基本概念を学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種高次脳機能障害の概要について述べるができる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	主要な高次脳機能障害の概要について学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害の基本概念と障害の種類について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の基本概念と障害の種類について学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	器質性構音障害の定義、原因疾患、補綴的アプローチについて述べるができる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	器質性構音障害の定義、原因疾患、補綴的アプローチについて学ぶ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	第1回～第9回で学んだ内容について述べるができる。	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	嚥下障害、高次脳機能障害、運動障害性構音障害、器質性構音障害それぞれのポイントを改めて確認する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの概要について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	言語とコミュニケーションについて学ぶ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの過程について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションの過程について学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺、重症心身症について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	言語発達障害(脳性麻痺、重症心身症など)について学ぶ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム、学習障害について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	言語発達障害(自閉症スペクトラム、学習障害など)について学ぶ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	AACの概要について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	AACの概要について学ぶ		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	AAC(ローテク・ハイレクコミュニケーションエイド)について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	AAC(ローテク・ハイレクコミュニケーションエイド)について学ぶ		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションの概要について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	各リハビリテーション期(急性期)の言語聴覚療法について学ぶ		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション(特に回復期、維持期)について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	各リハビリテーション期(回復期など)の言語聴覚療法について学ぶ		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	訓練の概要、目的について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	訓練概要(目標設定、目的など)について学ぶ		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	各訓練の概要、留意点について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	訓練概要(各訓練法など)について学ぶ		
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	構音器官と役割、構音障害の分類について説明できる。	・PCスライド ・配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	構音器官と役割、構音障害の分類について学ぶ。		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	構音障害の症状・検査について説明できる。	・PCスライド ・配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	構音障害の症状・検査について学ぶ。		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	正常発声に必要な条件、音声障害の原因について説明できる。	・PCスライド ・配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	正常発声に必要な条件、音声障害の原因について学ぶ。		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害の症状について説明できる。	・PCスライド ・配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	音声障害の症状について学ぶ。		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害の評価・検査について説明できる。	・PCスライド ・配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	音声障害の評価・検査について学ぶ。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	失語症の言語症状について説明できる。	- PCスライド - 配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	失語症の言語症状について学ぶ。		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	失語症候群、純粹型について説明できる。	- PCスライド - 配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	失語症候群、純粹型について学ぶ。		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚障害の種類、原因を説明できる。	- PCスライド - 配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	伝音難聴、感音難聴の原因、特徴について学ぶ。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士の倫理(職業倫理)について説明できる。	- PCスライド - 配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士の倫理(職業倫理)について学ぶ。		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括ケアシステムとリーダーシップについて説明できる。	- PCスライド - 配布資料	事前学習として、参考図書である、言語聴覚士テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	地域包括ケアとリーダーシップについて学ぶ。		
第31回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第32回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第33回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第34回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第35回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			